

平成28年度

「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会議」

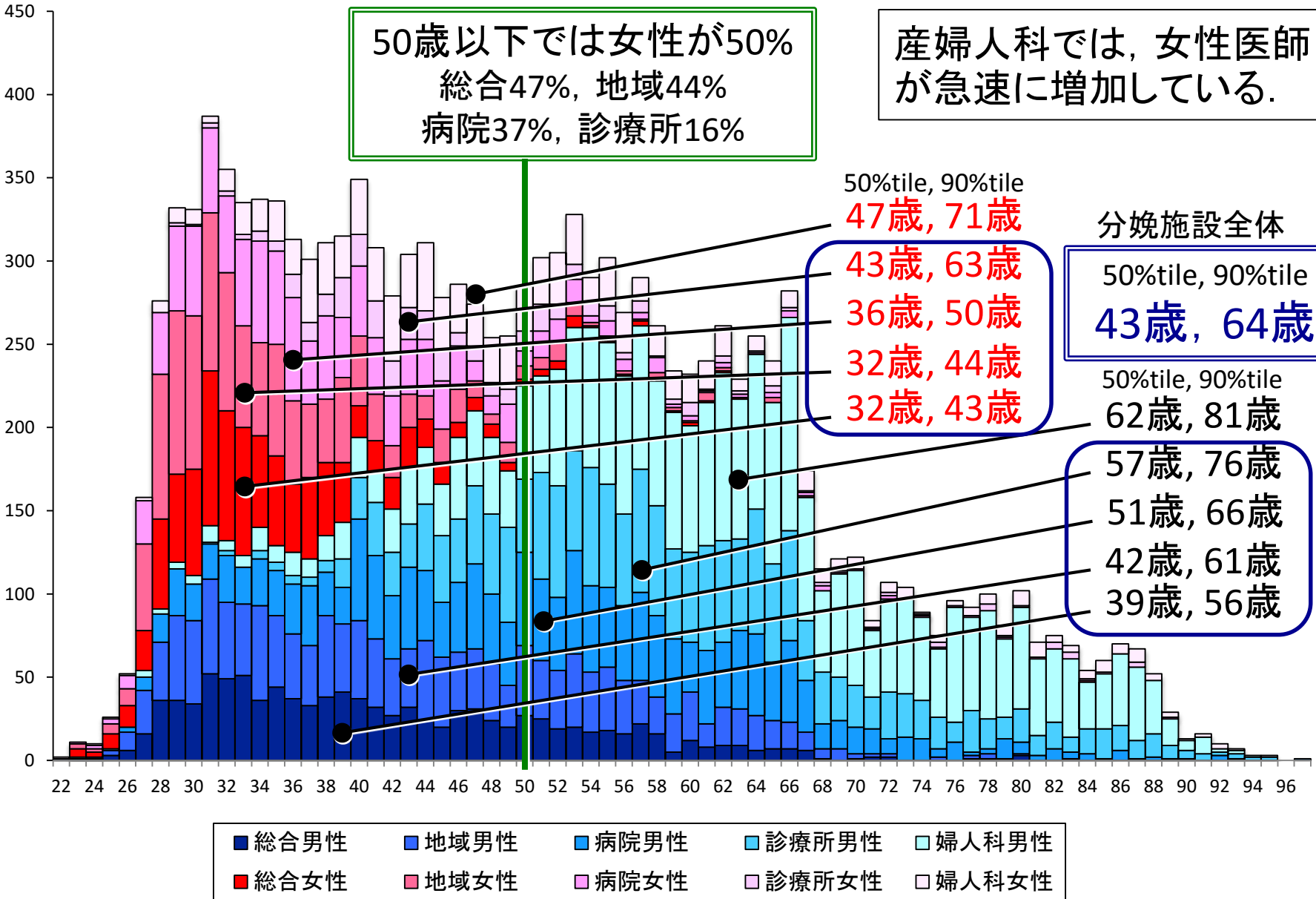
# 産婦人科女性医師の現状とその支援

日本産科婦人科学会

日本医科大学

中井章人

# 日本産科婦人科学会学会員の年齢別・男女別・施設別分布



# 女性医師支援のポイント

## 1. 男性医師に理解を得る.

(チーム医療, 当直翌日の勤務緩和, 分娩手当など待遇改善)

## 2. 現場から遠のかせない配慮をする.

(妊娠, 育児中の勤務緩和. 時短勤務. 院内保育所設置)

## 3. 全体の仕事量の軽減を図る.

(セミオープンシステム, 院内助産, 助産師外来, IT化など)

## 4. 仕事にモチベーションを与える.

(診療では到達目標. 研究テーマを与える)

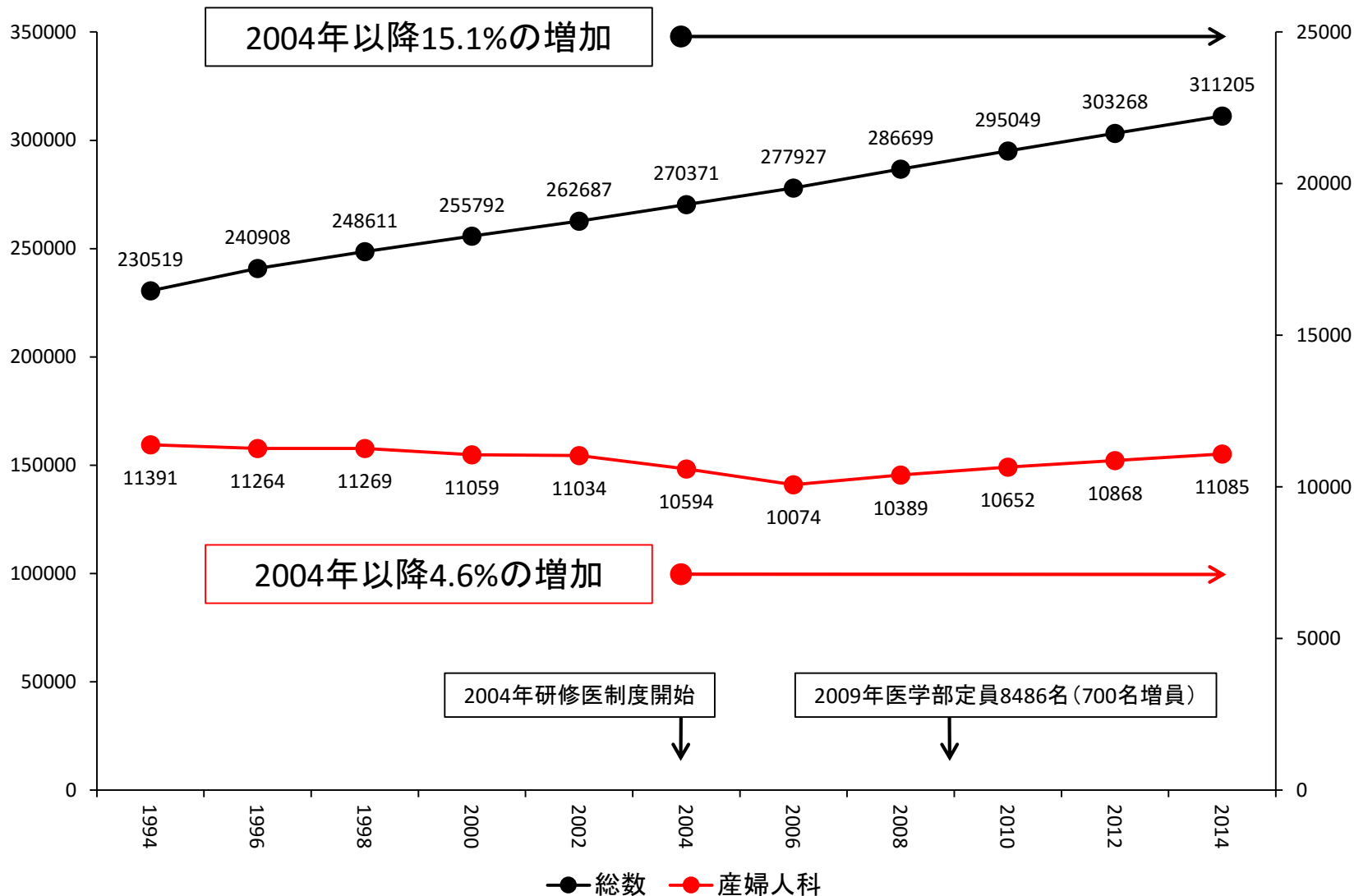
## 5. 指導的立場の女性医師を育てる.

(診療のみならず, 臨床研究を容易にする)

女性医師支援の到達目標は, 就労継続ではなく,  
一人でも多くの指導的立場の女性医師を育てること.

医師総数

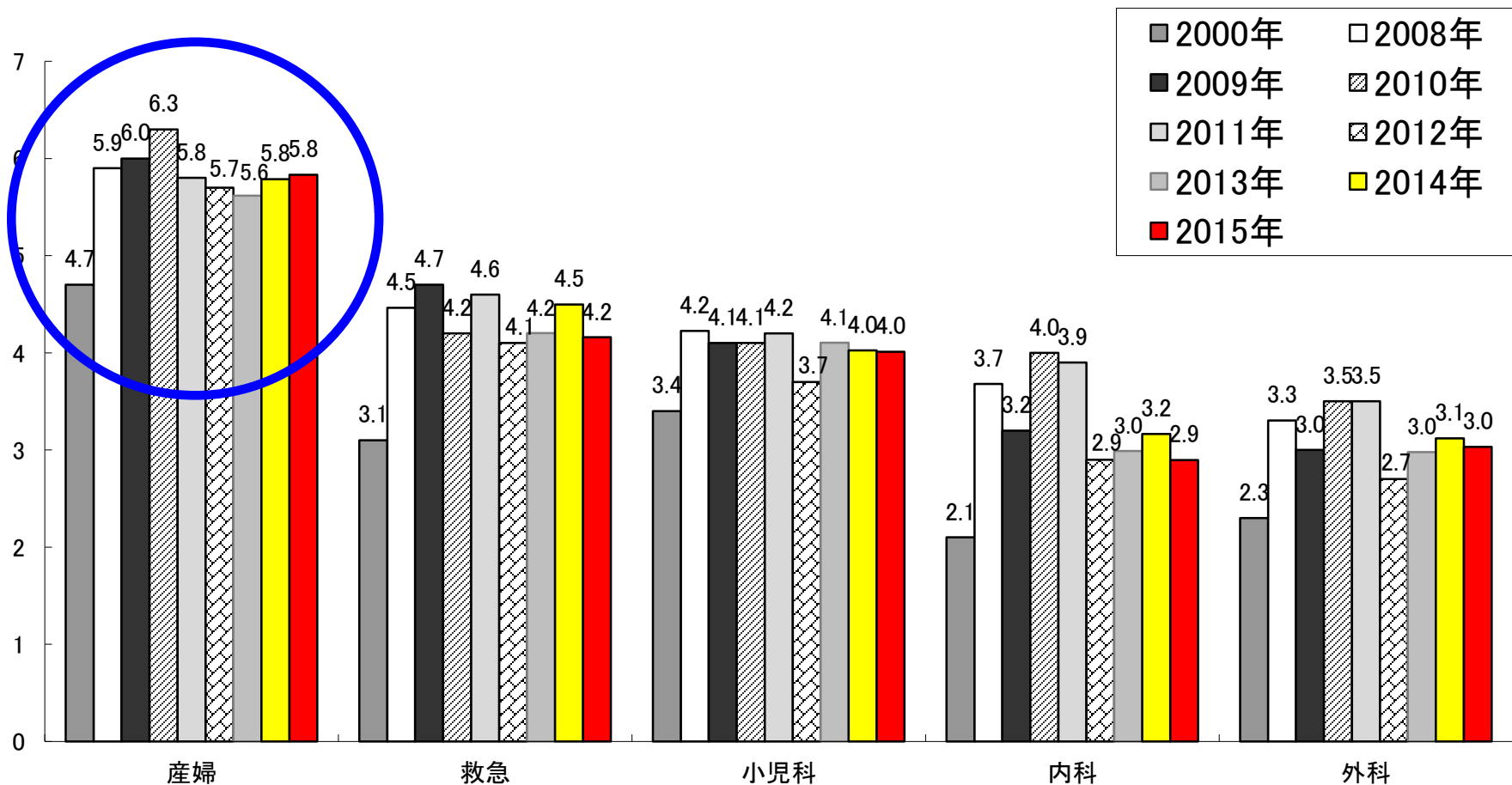
産婦人科、  
小児科医数



厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師調査2014

研修医制度の義務化は診療科偏在を加速している。

# 病院勤務医1カ月当たりの平均当直回数の推移

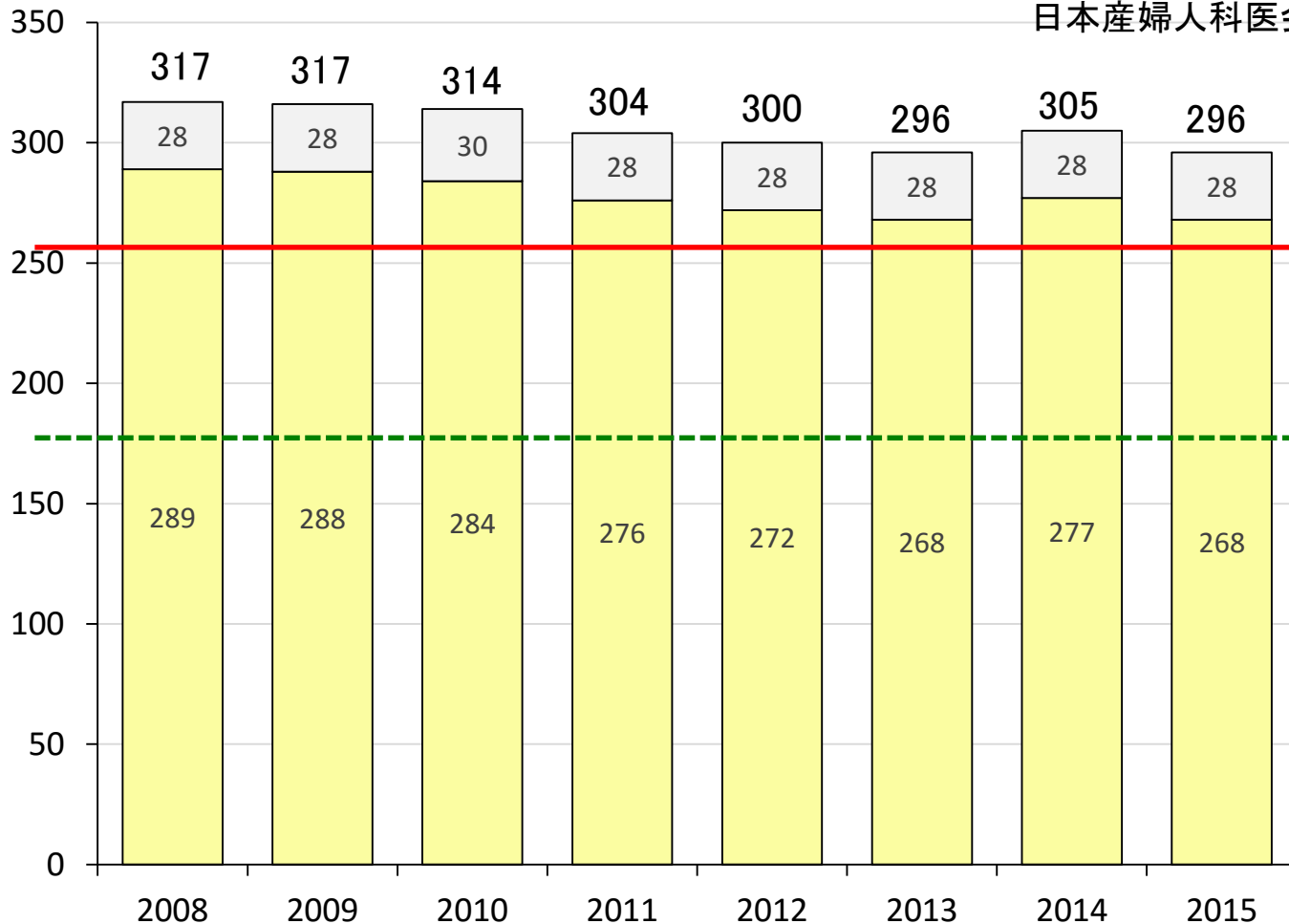


日本産婦人科医会勤務医部会調査2015年

医師数の微増にもかかわらず、産婦人科勤務医師の当直回数の改善はなく、他の診療科に比較し多い。

# 1ヶ月間の推定在院時間

日本産婦人科医会勤務医部会調査2015年



**過労死の  
認定基準  
(月80時間)**

**労働基準法  
(週40時間)**

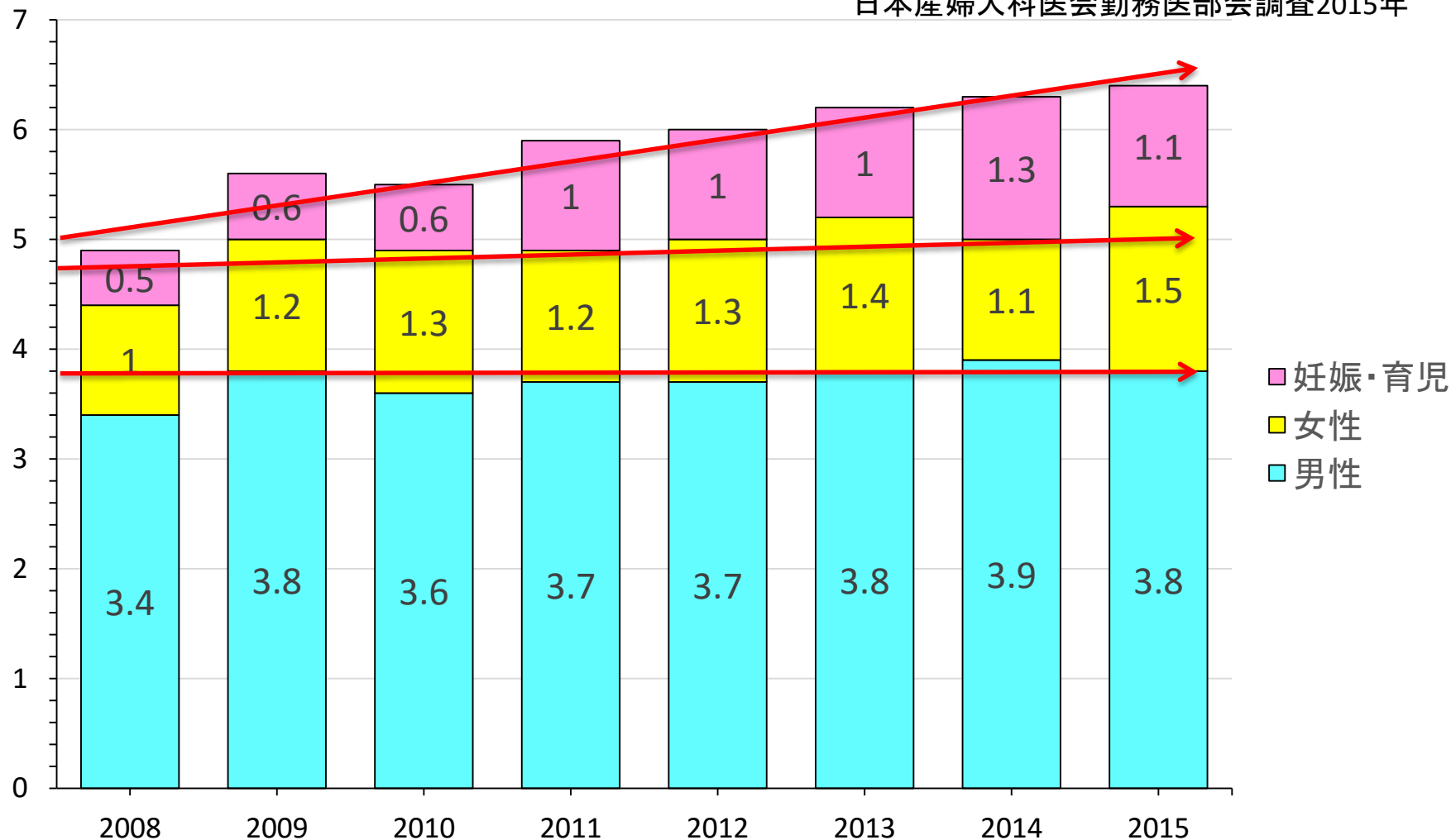
■ 実労働時間 □ 当直中睡眠時間

\* 推定在院時間 = 当直を除く1週間の勤務時間と平均当直回数より1ヶ月を30日間として算出

在院時間はわずかに改善したが、最近4-5年は不変。

# 分娩施設の常勤医師の内訳(施設あたりの医師数)

日本産婦人科医会勤務医部会調査2015年

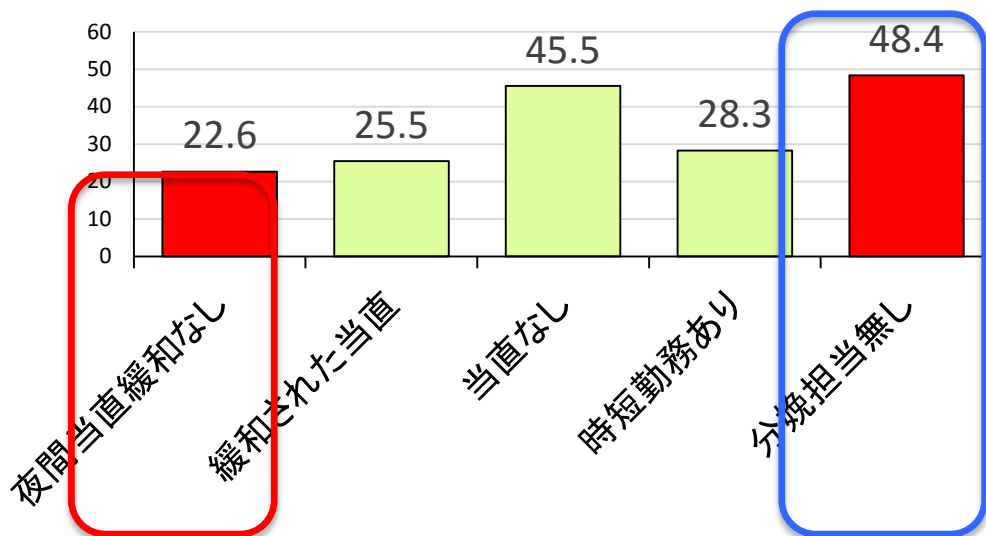


女性医師は30%  
妊娠育児中10%

女性医師は40%  
妊娠育児中20%

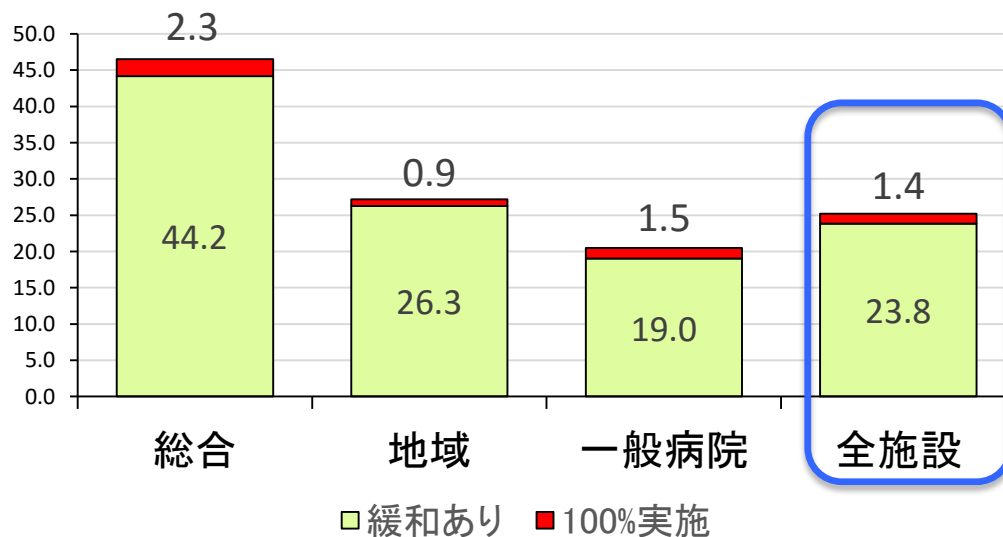
病院勤務医師のなかで、増加したのは妊娠・育児中の女性医師のみ。

## 子育て中の勤務緩和実施率(%)



22.6%は当直すら緩和されていないが、一方で行き過ぎた緩和が行われている。分娩取扱い免除は、キャリア形成に影響し、勧められない。

## 当直翌日勤務緩和実施率(%)

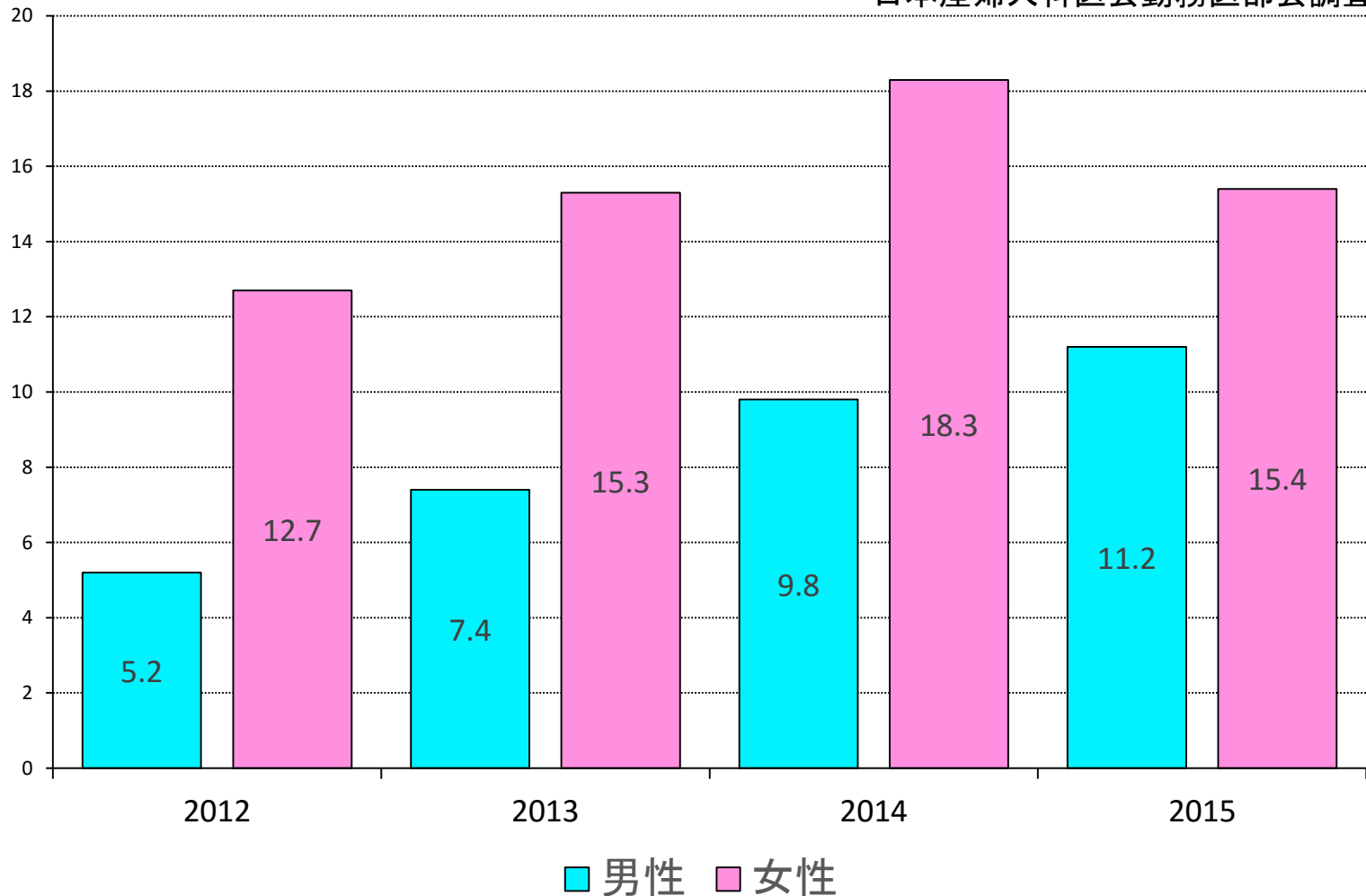


当直翌日の勤務緩和は、子育てに関わらない医師のためのものだが、4分の1の施設で院内にシステムはあるものの、100%実施率は1.4%で、実質何ら緩和がないに等しい。



# 常勤先のない医師の頻度(%)

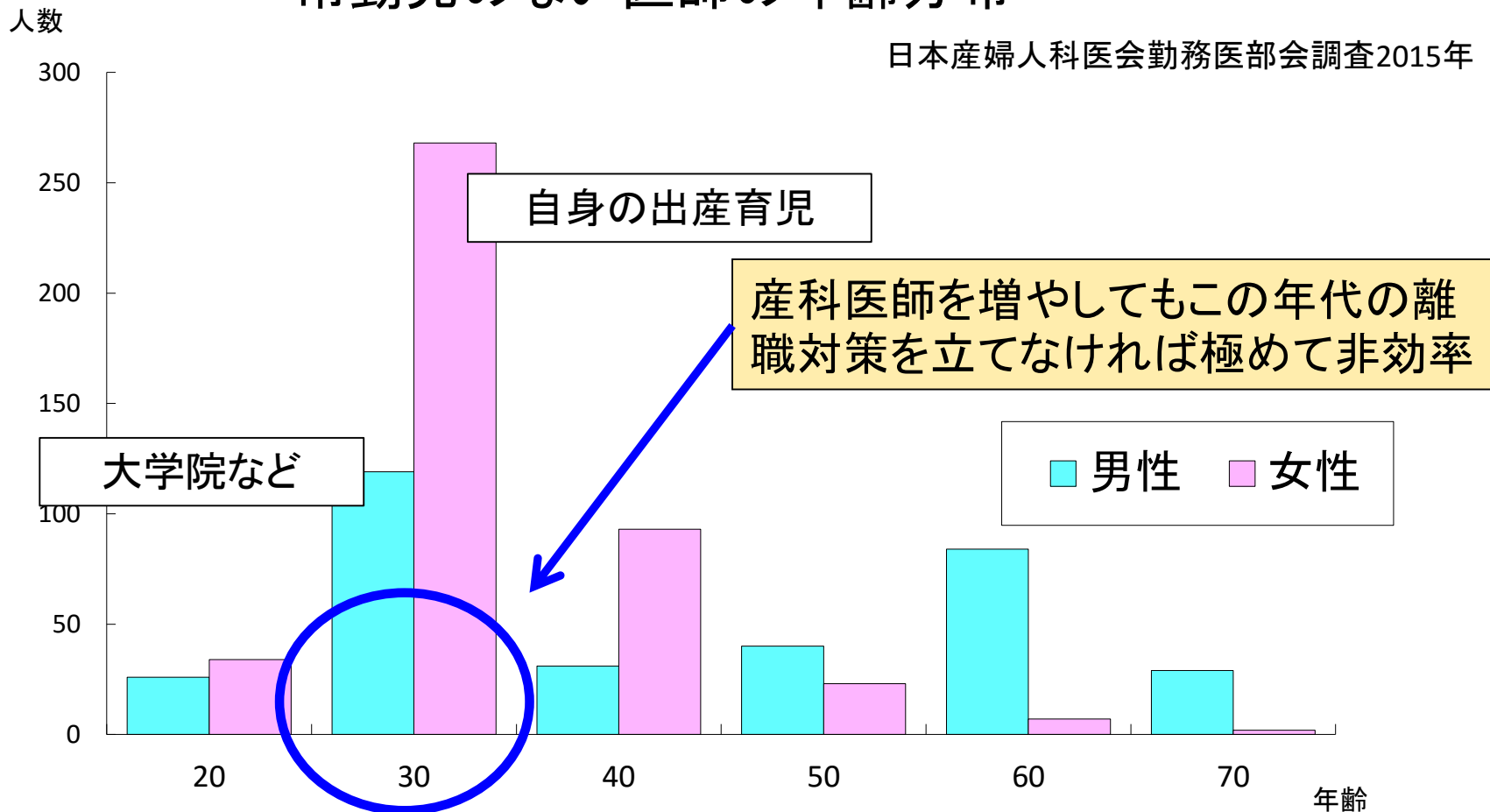
日本産婦人科医会勤務医部会調査2015年



女性のもう一つの問題は、常勤先のないフリーの医師の増加である。今後、フリーの医師の活用法が課題となる。

# 常勤先のない医師の年齢分布

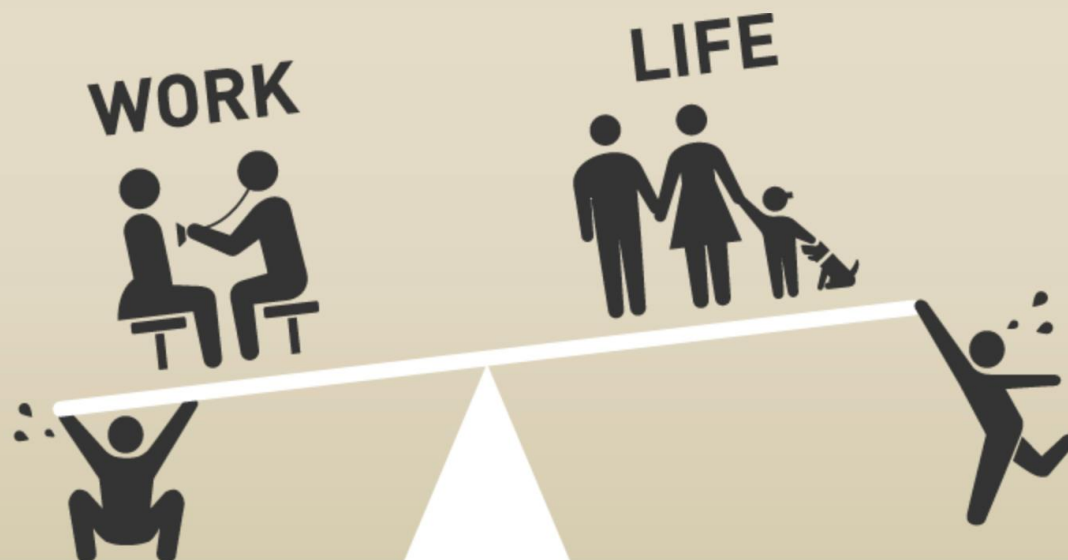
日本産婦人科医会勤務医部会調査2015年



フリーの医師の年齢分布は男女でことなり、女性では半数以上を30歳代が占める。

# W.L.B.

日本産科婦人科学会  
ワーク・ライフ・バランス



日本産科婦人科学会ホームページ  
(男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会)

# 女性医師就労支援

ライフステージに合わせた働き方で  
仕事を続けるために



HOME > 女性医師就労支援

女性医師就労支援

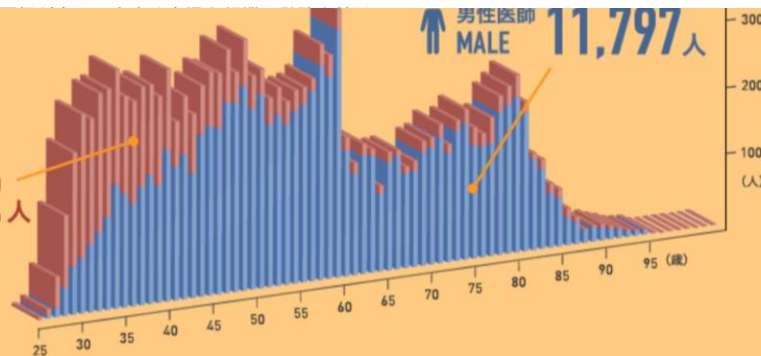
## 女性医師就労支援

今  
とか  
しま  
志し  
る。  
リア  
出  
な団

2006 DEC.

女性医師  
FEMALE 3,742人

男性医師  
MALE 11,797人



日本産科婦人科学会  
【年齢別会員医師数】 2013年2月

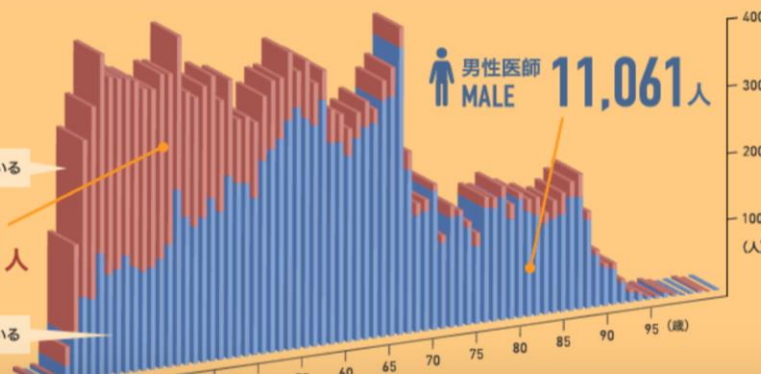
2013 FEB.

女性医師  
FEMALE 5,036人

男性医師  
MALE 11,061人

女性が増えている

男性が減っている





公益社団法人

日本産婦人科医会

Japan Association of Obstetricians and Gynecologists

文字サイズ **中** **大**

サイトマップ | Eng

Google™カスタム検索

検索

🏠 ホーム

❤️ みなさまへ

🏥 医療関係の方へ

👑 会員専用



お知らせ

— 更新情報 —

➤ 一覧へ

- 医療関係の方 2013年07月 8日 医会報7月号目次 **NEW**
- 医療関係の方 2013年07月 8日 勤務医ニュースNo.65 **NEW**
- 医療関係の方 2013年07月 5日 先天性風しん症候群の予防ための緊急対策と風しんの流行を根絶するための抜本的な施策実施のお願い **NEW**
- 医療関係の方 2013年07月 4日 第4回「産婦人科診療ガイドラインー産科編2014」コンセンサスマーケティング(8月4日開催)のご案内 **NEW**
- みなさまへ 2013年07月 4日 「学校医と養護教諭のための思春期婦人科相談マニュアル」申込書

女性医師支援



資料集



記者懇談会



👉 おぎや献金

TOP

ご挨拶

目的

トピックス  
体験談

メーリングリスト  
ご案内

先輩ママ  
ドクター登場

お役立ち  
リンク集

TOP > トピックス&体験談

## トピックス&体験談



### どうする？ 産婦人科女性医師の婚カツ

結婚、出産後も仕事を続けていくにはパートナーとの協力関係が何よりも大切です。  
そのパートナーと出会うための「婚カツ」について考えてみましょう。



### ライフプランと妊娠のタイミング

自分のキャリアプランの中でいつ家庭をもつかを考えていくことは大きな問題です。



### 妊娠中の勤務・当直

上司や仲間と相談しながら自分ができる業務を無理なく行っていきましょう。



### 産後の生活と職場復帰の準備

産婦人科医としての社会的役割を考え、長期的な視点で自分のキャリアについて考えていきましょう。



### 保育園・シッターさんのさがし方

仕事の間、こどもが楽しく過ごせる環境を確保することは、安心して勤務するうえで何よりも重要なことです。



### 保育園・シッターさんの利用について

地域の情報を集めてこどものためにも安心して保育できる施設を選びましょう。



### 育児と勤務の両立

仕事と育児、家事を自分だけで抱えないことが大切です。



2度目の出会いは・・・スポーツクラブ  
Dさん

私の場合、最初の夫は大学の同級生。大学時代からつきあっていましたが卒業と同時に結婚。夫は別の診療科に進みました。子どもはいませんでしたが、学生時代とちがいで、休日にも出勤や当直が多く、一緒に出かけることも、共に過ごす時間もめっきり減ってしまいました。顔を合わせても愚痴ばかりになってしまうようで話題も何となくかみ合わず、子どもをもつ機会もなく離婚することに。

その後、研修も終わって仕事にも慣れ、専門医も取得しましたが、一人であることが何となく寂しく感じるようになりました。そんなとき体力作りのために通っていたスポーツクラブの懇親会で出会ったのが今の夫です。医療関係ではなく会社の営業職でしたが、共通の趣味もあり、半年ほどで結婚することに。婚家は自営業で、夫は家事もそこそこできる人です。今では保育園の送迎など子どもの世話もかなりの部分を担ってくれていて、当直のときなど「お任せ」して安心して出勤できます。



出会いを求めて、見識も深まる一石二鳥の過ごし方。  
Eさん

医師になってもう8年、仕事が忙しく、月数回しかない休日もごろごろしているうちに一日が終わってしまうような生活でした。なかなか出会いのチャンスがありません。他科の医師でちょっといい感じ、と思うと既婚者だったりして、周囲に独身男性も少なく、このまま仕事に忙殺されて年齢を重ねていくのか、と悲観的になることもありました。独身で時間のゆとりがあると思われているせいか、これまで地方勤務などもまっさきに引き受けさせられてきたように思います。子持ちの同僚が定時で帰宅するのを見るとやりきれない気持ちになることも・・・実家の両親からは結婚しないのか、と帰省するたびに言われるのでそれもプレッシャーでした。



思いきって非常勤に変わって時間と体力の余裕のある生活をしながら「婚カツ」しようかな、と思うこともたびたびで、

# 結語

「男は狩りに出て、女は家を守る」といった世界共通の伝統的な家庭の形態が変わり始めている。お互いに仕事を持ち、家事を共有することが夫婦の円満に必須で、かつ、社会に求められている。

2010年の英国の調査では、率先して家事を手伝う夫は全体の25%で、妻が仕事を始めると離婚の危険性は約2倍近く増加するが、夫の家事参加によって、その危険性は最小限に抑えられると指摘している。

Sigle-Rushton, Wendy (2010) Men's unpaid work and divorce: reassessing specialization and trade in British families. *Feminist economics*, 16 (2). pp. 1-26. ISSN 1354-5701 より引用

まさに、**家庭での男女共同参画**が求められているのである。